

第7回 番組審議会 議事録

開催日時：2016年11月17日（木）15：10～16：30

会場：京都府舞鶴市字円満寺 158-6 西市民プラザ 2階 市民活動団体活動室

委員総数：5人 出席：3人 欠席：2人

出席委員：水嶋純作 山内茂樹 松井恭子

欠席委員：松本 泰 今安博和

局側出席者：ジェネラルマネージャー 時岡浩二

放送局長 中西 進 制作チーフ 上田秀篤（順不同敬称略）

議 事

1. 局からの報告事項

- ① 10/22・23（土・日）に赤れんがパークで「赤れんがフェスタ 2016」が開かれた。赤れんがパークで行われる最も大きなイベントで人出が見込まれることから会場で公開生放送を行ってPRを行うとともに、アンケート用紙による簡易な聴取者動向調査を試みた。主な結果は次の通り。

・FM まいづるの認知度	84%
・FM まいづるの聴取経験あり	66%
・よく聴くラジオ局 αステーション	49%
（複数回答） FM まいづる	34%
NHK-FM	14%

- ② 11/13（日）に舞鶴赤れんがパークで開かれた「中丹絆フェスタ」で中丹地域のコミュニティFM局3局、FM丹波=京都FM丹波放送（株）、FMいかる=（株）エフエムあやべ、FMまいづる=（一財）有本積善社がリレー形式で各30分番組を放送した。これは中丹広域振興局の発注で、舞鶴にコミュニティ放送局が開局したことにより3局連携による企画が初めて実現したものである。各番組内ではFMまいづるのパーソナリティが会場から電話レポートをおこなった。番組内で放送したキーワードを来場者が会場受付で申し出ると賞品をプレゼントする催しを行ったが、用意したプレゼントは全部出るほど好評だった。

2. 議題

① 番組審議

公開収録「みらい創造番組 KENPOU.FM」（9/3収録、9/10放送）

（公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 京都ブロック協議会主催）

出演：FMまいづるパーソナリティ 瀬崎真菜

日本大学法学部教授 百地 章 氏

内容概略：日常の社会事象/生活と憲法のかかわりをパーソナリティの質問等をもとに百地氏が解説。

【主な意見】

- ・内容的には特に問題なかった。1つのことを多面的に見る方がいることがわかってよかった。

- ・ 固い法律を柔らかく解説され、女性にはわかりやすかった。知りたい人は結構いると思う。勉強になった。
- ・ 差しさわりのある点はなかった。パーソナリティも事前に勉強していたことが伺えた。出演の有名教授の話が聴けたのはよかったし、憲法が議論されている時期なのでよかった。

② 他の番組等に関する意見

- ・ アナウンスの声が小さく、CMの音量が大きくて聴きにくいという番組が一部にある。
 - 局回答：パーソナリティに機器操作の研鑽を積ませたい。
- ・ 朗読の会や読み聞かせの会というボランティアグループがある。これらのグループに作品を読んでもらって番組を作れば制作費は安価で済むのではないか。
 - 局回答：作品の著作権処理問題が解決し、スポンサーがつけば可能かもしれない。
- ・ 教育委員会に予算をとってもらって小中学生向けの番組を制作するのはどうか。また、PTA協議会に予算を出してもらって、保護者向けの番組を制作するのはどうか。
 - 局回答：考慮に値するので、来年度に向けて働きかけたい。
- ・ 台風などの際に、市民からの情報（川の水位、町の様子など）を放送することは難しいか？
 - 局回答：Twitterなどに書き込まれた匿名市民の情報は信憑性に欠けるので放送には出せない。あらかじめ登録した人からの情報なら、別途、その人の安全を担保する方法も考えた上で、可能かもしれない。また、放送を出す側の手間をどこまで掛けられるかという問題もある。現体制では市役所からの防災に関する情報FAXや气象台や河川事務所などの公的機関の情報を繰り返すのが基本と考える。
- ・ 舞鶴市内には市長配下に消防団が20団組織されており、台風等の時は団員が管轄地域を巡回している。こうした人にあらかじめ登録をお願いしておくのも方法だろう。また、普段の番組にゲストで出演してもらおうと、市民の防災意識の啓発に役立つだろう。

以上で審議は終了した。

この審議会の議事録は2016年11月24日から事務所で閲覧できるようにした。
この審議会の議事録は2016年11月24日からホームページで公開した。